

季刊 高尾ビジターセンターニュースレター
のぶすま

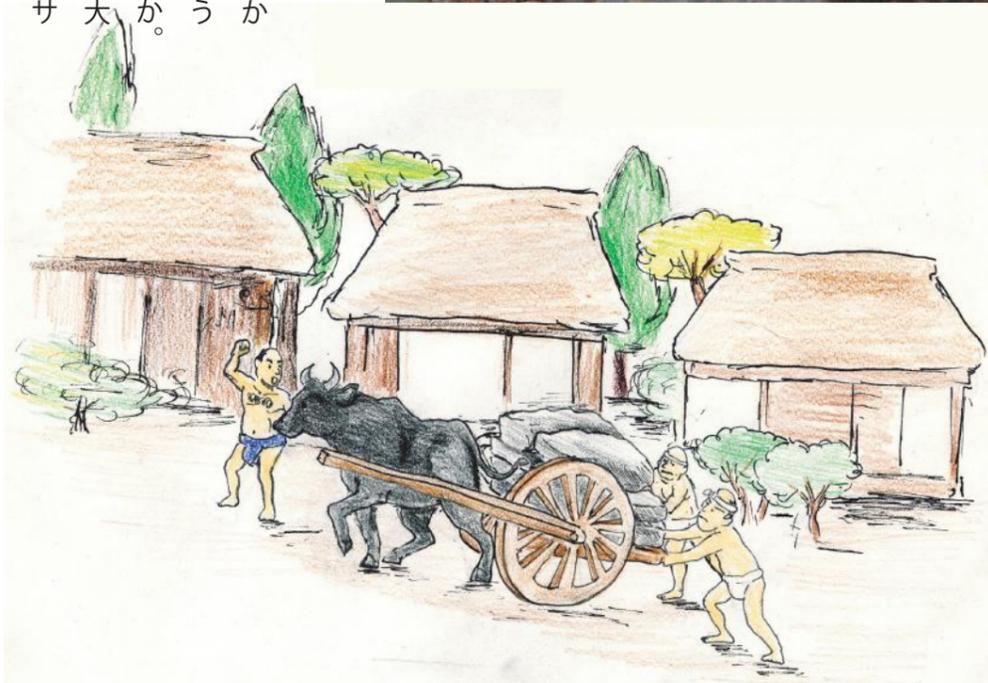
2010年冬号
 Vol.21

「のぶすま」とはムササビの古い呼び名です。高尾山に住む人気者のムササビにあやかって、「のぶすま」とつけました。



◆不思議！木の中から現れた二百年前の道標！
 【是より琵琶のたきみち】

平成十三年(二〇〇一年)に薬王院付近の大きなスギを危険予防のため伐採したとき、中から現れました。赤坂に住んでいた、足袋屋清八という人が発起人だそうです。こんなに重そうな石を山まで運び上げるには、一体どれくらいの人や牛馬、お金が使われたことでしょうか。足袋屋といっても商人ではなく、江戸〜高尾(約五十キロメートル)を一日で往復するなど大変な俊足であった、天狗を使って、おまじないで病人を治した、やんごとなきお方がスポンサーだった、など、あまたのウワサがあります。薬王院境内で探してみてくださいね。



解説員コラム 冬山の装備はしっかりと！

冬の山は空気が澄み、木々の葉も少なくなるので、眺望を楽しむには一番の季節です。しかし、山を歩くには、凍結の影響によって最も条件が悪くなる季節でもあります。氷点下になると、地面の至るところに霜柱が発生します。霜柱は地表の土を押し上げるため、路面はデコボコになります。こうなると、つまずいたり、バランスを崩したりと、普段より歩きにくくなります。また、日中気温が上がって、氷が溶け出すと、今度はぬかるみのひどい泥道に変わります。泥道は滑りやすく、足を泥に捕らわれて歩きづらい上、靴やズボンは泥まみりです。さらけになってしまいます。さらに気をつけたいのは、積雪があるときです。路上の積雪が踏み固められ、軽アイゼン以外にも、泥よけのためのスパッツがあると、より快適な山登りが楽しめます。しかしながら、積雪後は危険性が最も高いので、計画の延期や中止をすることも必要です。「備えあれば憂いなし」。山登りにおいて、自分を守ってくれるのは自分だけです。準備と情報収集を怠りなく、楽しい山登りをしてほしいですね。

◆編集後記

高尾山は植物や動物などの自然だけでなく、歴史や文化も豊かな場所です。もともとは山岳信仰の修行のための峻険な場でしたが、そうした信仰の習慣が民間へ広がるにつれて、開かれた場所になったようです。山内にある石碑をながめていると、当時のにぎわいが伝わってくるようです。昔の人達が積み重ねてきた時間を感じさせてくれます。 T.F

高尾山4コマ漫画 その13
 解説員アラツの挑戦！
 ビジターセンターの生き仏？の巻



季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」

2010年冬号Vo.21 2010年1月4日発行
 発行：東京都高尾ビジターセンター 自然解説員
 所在地：〒193-0844 東京都八王子市高尾町2176
 電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926
 ホームページアドレス <http://www2.ocn.ne.jp/~takao-vc/>
 (カラー版「のぶすま」最新号を閲覧できます)

◆購読の方法

80円切手と封筒(※宛先に送付先の郵便番号・住所・氏名を必ず記載してください。)を送付希望分同封し、上記ビジターセンターまでご郵送下さい。



「のぶすま」は高尾山頂にある高尾ビジターセンターにて配布しております。ご希望の方は窓口へお申し付けください。